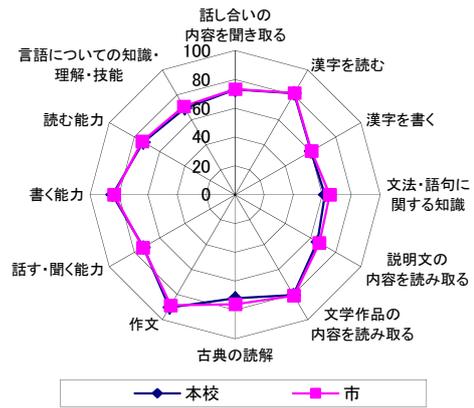


宇都宮市立横川中学校 第2学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

	本年度		
	本校	市	
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	73.0	73.3
	漢字を読む	81.3	81.5
	漢字を書く	60.3	60.6
	文法・語句に関する知識	61.9	65.2
	説明文の内容を読み取る	65.5	66.9
	文学作品の内容を読み取る	80.3	80.9
	古典の読解	71.8	76.0
観点別	話す・聞く能力	73.0	73.3
	書く能力	84.5	83.4
	読む能力	72.9	73.9
	言語についての知識・理解・技能	69.2	70.9
	作文	90.3	88.6



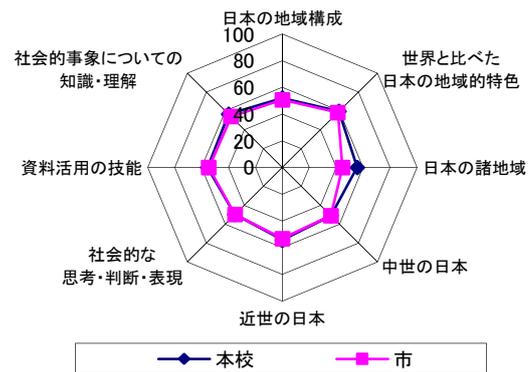
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	宇都宮市の平均と比べると、0.3ポイント低い結果であった。内容的には、聞き手に理解してもらったための話し方の工夫を聞き取ることができる問題の正答率は市の平均より6.2ポイント高かったが、話し手の意見に対して自分の考えを持ち、質問することができる問題の正答率は、市の平均より4.7%低かった。	論理的な構成や展開を考えられるようにするために、内容を聞き取る場面を意図的に設ける。また、自分の考えをしっかりと述べる事が出来るような場面も意図的に設ける。 市のフォローアップ問題で補充し、内容理解の力をつけさせる。
漢字	宇都宮市の平均と比べると、漢字の読みで0.2ポイント低く、漢字の書きでは0.3ポイント低い結果であった。内容的には、第2学年までに学習した漢字を読むことができる問題では、ほとんどの問題は市の平均と同じであったが「狭める」の正答率が市の平均より7.8ポイント低く、小学校で学習した漢字を書くことができる問題では、「率いる」の正答率が市の平均より7.2ポイント低かった。	授業中の漢字プリントと、漢字テストの継続を図る。また、各単元ごとに新出漢字の学習をし、漢字の定着を図る。ただし、漢字を覚えることは授業中だけでは難しい面もあるため、書いて覚えることを指導し、自主学習ノートを活用し定着を図りたい。
文法・語句に関する知識	宇都宮市の平均と比べると、3.2ポイント低い結果であった。内容的には、ほとんどの問題は、市の平均とほとんど同じくらいであったが、用言の活用について理解している問題の正答率が市の平均に比べて、6.1ポイント低かった。	文法・語句に関しては、授業中での定着を図ると共に、市のフォローアップ問題で補充を行い、知識の定着を図りたい。
説明文の内容を読み取る	宇都宮市の平均と比べると、1.4ポイント低い結果であった。内容的には、文章構成や展開をとらえる問題は市の平均を1.5ポイント上回っていたが、文章の内容をとらえて、それを具体的な事例にあてはめることができる問題が、市の平均より3.2ポイント低かった。	説明文では、文脈を押さえることが重要になるので、内容をまとめる授業を設けることで力を付けさせたい。 市のフォローアップ問題で補充し、論理の展開を的確に理解させたい。
文学作品の内容を読み取る	宇都宮市の平均と比べると、0.6%低い結果であった。内容的には、ほとんどの問題では市の平均を上回っていたが、登場人物の心情をとらえることができる問題が、市の平均より4.5%低かった。	本年度の指導の継続を図るとともに、長文で作者の意図を読み取る力を付けさせる場面を意図的に設けたい。 市のフォローアップ問題で補充し、主題や登場人物の気持ちをなるべく平易な文章を用いて読み取らせたい。
古典の読解	宇都宮市の平均と比べると、4.2ポイント低い結果であった。内容的には文章の内容を的確に捉える問題は市の平均より高かったが、歴史的かなづかいを現代かなづかいに直すことができる問題が市の平均より15.5ポイント低かった。	歴史的かなづかいは古典の授業において基本的な問題であるので、くりかえし復習することで生徒の定着を図りたい。また、文章を繰り返し読むことで、歴史的かなづかいを身につけさせたい。 市のフォローアップ問題で補充し、古典知識の定着を図りたい。
作文	宇都宮市の平均と比べると、1.7ポイント高い結果であった。内容的にはどの問題も市の平均より高かったが、とくに3段落構成で文を書くことができる問題は、市の平均より4.7ポイント高かった。	基本的な作文の書き方は身につけている。今後も作文の力を付けるために、文章を書く機会を意図的に設けたい。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	日本の地域構成	52.0	50.7
	世界と比べた日本の地域的特色	59.4	58.2
	日本の諸地域	55.7	44.6
	中世の日本	51.1	51.0
	近世の日本	54.3	53.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	49.9	49.8
	資料活用 の技能	55.5	54.7
	社会的な事象についての知識・理解	56.4	53.9



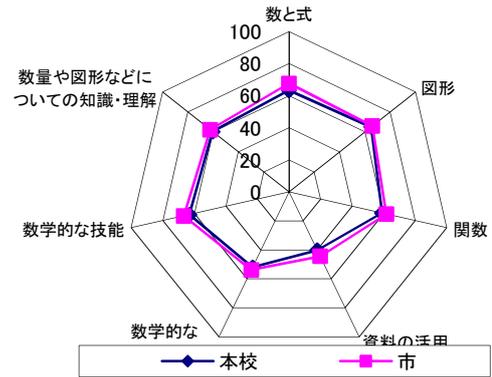
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点	
地理	日本の地域構成	全体的には、市よりも1.3ポイント高い正答率であった。緯度、国土の位置、時差、都道府県についての出題に対してはいずれも市を上回ったが、日本の領域にに関して、日本と他の国々の領海・経済水域と領土の面積について比較して考える「活用」が思うような正答が得られなかった。	<p>地理的分野については、教科書の太字の重要語句やワークブックを利用し、知識の定着を図り、基礎的・基本的事項の理解度を向上させたい。</p> <p>また、デジタル教科書を活用して、グラフ等の変化や推移を視覚的に訴え、資料を的確により取る力のさらなる向上を図りたい。それとともに、その事象がなぜそうなるのか理由を考えたり、自分の言葉で表現する「活用」の場面を多く取り入れることを通して思考力や表現力の向上を図っていく。</p>
	世界と比べた日本の地域的特色	全体的には、市よりも1.2ポイント高い正答率だった。人口問題についてはいずれも資料を読み取る「技能」や重要語句の「知識・理解」が定着しており正答率も高かった。	
	日本の諸地域	全体的には、市よりも11.1ポイント高い正答率だった。しかし、本州、四国間の結び付きに関する複数の資料を読み取り、結び付きの変化によって生じる問題点について考え、表現する「思考」の問題については正答率が市よりも2.5ポイント下回った。	
歴史	中世の日本	全体的には、市よりも0.1ポイント高い正答率だった。鉄砲の伝来や織田信長、豊臣秀吉の政策の問題についてはいずれも重要語句の「知識・理解」が定着しており正答率も高かった。	<p>歴史的分野についても、地理同様、教科書の太字の重要語句やワークブックを利用し、知識の定着を図り、基礎的・基本的事項の理解度を向上させたい。特に江戸時代について知識の定着が図られていない様子が見られるので、一問一答形式で重要語句の暗記を促していく。</p> <p>また、デジタル教科書を活用して、グラフ等の変化や推移を視覚的に訴え、資料を的確により取る力のさらなる向上を図りたい。それとともに、その歴史的事象がなぜそうなるのか理由を考えたり、自分の言葉で表現する「活用」の場面を多く取り入れることを通して思考力や表現力の向上を図っていく。</p>
	近世の日本	全体的には、市よりも1.0ポイント高い正答率だった。しかし、武家諸法度を答える問題は市よりも8.1ポイント、大阪が繁栄した理由を記述で答える問題は6.4ポイント、貨幣経済の資料読み取りで考えるという問題については7.8ポイントと、いずれも下回った。	

宇都宮市立横川中学校 第2学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	63.3	67.7
	図形	65.0	65.9
	関数	59.0	61.7
	資料の活用	40.2	44.4
観点別	数学的な見方や考え方	52.1	53.9
	数学的な技能	63.2	66.7
	数量や図形などについての知識・理解	60.4	62.3



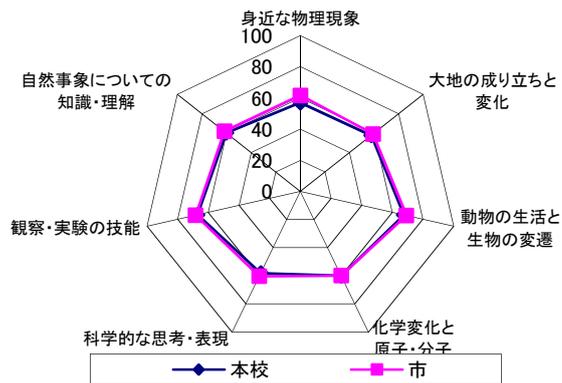
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	本年度は、宇都宮市の平均と比べて、4.4ポイント下回っている。文字式の乗法の計算については市の平均を上回っているが、特に連立方程式の文章題を立式することができなかったようである。	連立方程式では、1年生のうちから1次方程式を速く、正確に解く力を高め、代入法や加減法を問題によって使い分け、正しく解く力を身に付けさせたい。また、文章を読み取り、正しく立式する力をアップさせていきたい。
図形	本年度は、宇都宮市の平均と比べて、0.9ポイント下回っている。作図については、市の平均を8ポイント上回っているが、投影図の問題について正しい判断をすることができなかったようである。	投影図の問題を理解させるために、デジタル教材のシュミレーション動画などで、視覚的に印象付け、興味関心を高めていきたい。また作図については、基本的な技法から、応用的な問題を作図できる力を身に付けさせたい。
関数	本年度は、宇都宮市の平均と比べて、2.7ポイント下回っている。表から1次関数の式を求める問題については、市の平均よりも10ポイント上回っているが、グラフの2直線の交点を求める問題を正確に計算することができなかったようである。	比例・反比例からの苦手意識は強いものの、表を使った1次関数の立式を理解できていると考えられる。グラフの交点を求める計算を正確に計算することができなかったため、連立方程式を正確に計算できる力を身に付けさせることで、交点の座標を求める力を身に付けさせたい。
資料の活用	本年度は、宇都宮市の平均と比べて、4.2ポイント下回っている。有効数字の理解と度数分布表からの相対度数を正しく求めることができなかったようである。	正しい理解を身に付けさせるために、語句の正しい意味を理解し、平均値や中央値、相対度数などを求める基本的な問題を、反復して取り組んでいきたい。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	身近な物理現象	56.9	61.6
	大地の成り立ちと変化	57.7	59.1
	動物の生活と生物の変遷	67.4	69.2
	化学変化と原子・分子	60.0	59.8
観点別	科学的な思考・表現	58.0	60.3
	観察・実験の技能	67.1	68.3
	自然事象についての知識・理解	60.3	61.8



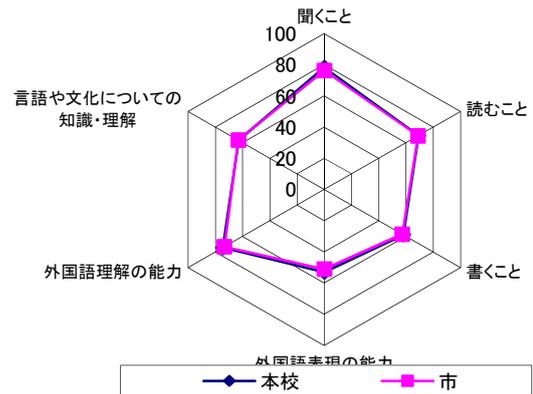
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	本校の正答率は、56.9%で、市を4.7ポイント下回っている。音の性質については、比較的正答率が高いが、力(圧力)についての正答率は特に低い。	音を聞いたり、波形となった音を観察したするような、聴覚的・視覚的にとらえやすい分野における正答率が高い実際に体験させてみる指導が有効だと考えられる。力の分野においては、実際に見ることができないもので、正答率は低い。また、圧力の計算問題の理解は浅い。計算練習を繰り返す必要がある。また、求めた圧力と、実際に体験を通して受けた感覚を合わせるなど、生徒の印象に残る指導を行う必要がある。
大地の成り立ちと変化	本校の正答率は、57.7%で、市を1.4ポイント下回っている。堆積岩の粒の大きさから、地層ができた当手を推測する問題の正答率が3割弱と低い。	火成岩関連では、実際に観察したが、実際に含まれている鉱物は非常に小さく、鉱物標本のようにきれいではないため、堆積岩の性質の方が印象深かったようである。火山灰を用いた鉱物の観察などの体験的な活動をより多く取り入れて、生徒の印象に残る授業を展開していく。
動物の生活と生物の変遷	本校の正答率は、67.4%で、市を1.8ポイント下回っている。生物と細胞の問題は、正答率5割程度で、市よりも低くなっている。動物の分類・進化の問題は正答率が高い。	動物に興味を持つ生徒は多く、分類やそれぞれの生物の特徴については進んで学習していた。しかし、内蔵や骨格、体内のはたらきなどの目には見えない部分についての理解は浅かった。今後は、模型や骨格標本、インターネットの画像などを有効に利用し、生物の体内についての理解を促す工夫をしていく。
化学変化と原子・分子	本校の正答率は、60.0%で市を0.2%ポイント上回っている。化学反応式、還元の問題が比較的低い。	ガスバーナーの操作や、実験での薬品の取り扱いはおおむね理解している。化学反応式については、原子の記号や化学式が身につけていない生徒が多い。くり返し小テストを行い、基礎から身に付けさせる必要がある。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	78.1	76.2
	読むこと	69.1	68.9
	書くこと	58.0	57.2
観点別	外国語表現の能力	52.9	51.0
	外国語理解の能力	74.5	73.4
	言語や文化についての知識・理解	63.0	63.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	宇都宮市の平均よりも高い正答率であった。細かく見ていくと、絵を使用した問題と、対話文を聞いての問題があり、対話文を聞いて答える問題の方が正答率が高かった。これまでは絵を用いた問題のほうが生徒も答え易い傾向にあったが、絵に頼らず、英語を理解しようとしてきてきている。	英語でのコミュニケーションの機会を設けることに重点を置いていきたい。生徒達の様子を見てみると、自分で言える英文・単語は、聞き取りもできている。しかし、自分で言えないものに関しては、聞き取りも苦手になる傾向がある。ALTの活用及び、授業内で教師との会話を英語で行うことで、'言う'機会をふやしたい。また、コミュニケーション活動を通し、生徒同士の英語での会話も取り入れていきたい。
読むこと	宇都宮市の平均よりもやや高い正答率だった。長文読解に関しては、全体の内容把握は比較的にできるようになってきた。代名詞が具体的に何を指しているのかなどの、細かいことについての読み取りは、まだまだ苦手である。	教科書では、各単元ごとに読解教材が扱われている。これまで、個人で要点まとめを行ったり、グループで読解を行ったりしていたが、苦手意識のある生徒は多い。次の段階として、内容理解よりも問題を解く、ということに重点をおいていく指導を行ったところ、長文読解に対して好意的にとらえる生徒が増えてきている。今後も、それを続けることで長文読解力をつけられるよう指導していきたい。
書くこと	作文問題はこれまでも苦戦した分野であったが、今回は市より高い正答率であった。ただし、語彙問題などを見ると、単語が書けない生徒が多く、語彙力に課題が見られる。それが解消されることで、作文問題の力もより上がっていくことが期待される。	語彙力をつけること、また、基本的な英文の構造理解をすることが要される。現在授業の最初に、1年で習った単語の復習テストを行っている。単語を覚えるには、繰り返しが必要のため、単語テストをすることで、自分の単語力に気付かせたい。また、今後は基本文のパターン練習なども取り入れていきたい。さらに、自分の考えを文章にするなど、少々難しい問題も挑戦する機会を設け、意欲につなげていきたい。